

2018年1月11日

三菱地所株式会社

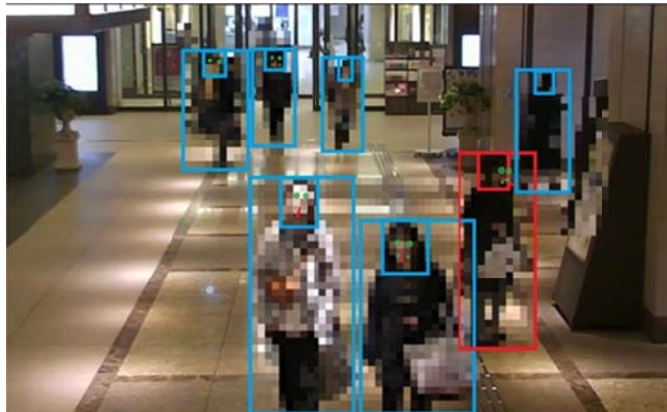
総合警備保障株式会社

株式会社 PKSHA Technology

カメラ映像の AI 解析により「困っている」方を検知する 最先端の「新たなおもてなしサービス」の実証実験を実施

三菱地所株式会社（本社：東京都千代田区、執行役社長：吉田淳一、以下 三菱地所）、総合警備保障株式会社（本社：東京都港区、社長：青山幸恭、以下 ALSOK）、機械学習/深層学習技術に関わるアルゴリズムソリューションを展開する株式会社 PKSHA Technology（本社：東京都文京区、代表取締役：上野山勝也、以下 PKSHA）は、ALSOK が導入する AI/ディープラーニングエンジン（PKSHA の画像/映像認識エンジン「Vertical Vision」を活用）をもとに、街なかで「困っている方」の動きを検知する未来型の「新たなおもてなしサービス」の実証実験を実施します。

本実証実験では、2018年1月22日より新丸の内ビルディング（東京都千代田区）に設置したカメラ映像を、AI/ディープラーニングエンジンで解析し、「困っている方」の行動（道に迷い辺りを見渡している、体調が悪くしゃがみこんでいる等）を自動検知します。解析結果は、エリアを巡回する警備員が所持するスマートフォンに通知され、状況に応じて適切な対応を行います。



赤枠：対象行動を検知した様子 **青枠**：人を検知した様子

この「新たなおもてなしサービス」実証実験は、お客様へのサービス向上だけでなく、エリアのセキュリティ向上、各種事故防止につながることを期待されます。従来はパトロール要員の目視により行っていた「見回り」を、AIによる分析で補助することが可能になり、よりきめ細やかな状況把握が可能となります。

ALSOK は、お客様と社会の「安全・安心」を守るため、最高品質のサービスを提供し、新たな企業価値を創造し続けています。これまでに蓄積してきた警備員のノウハウと、最新の AI 技術の融合を進めており、防犯、防災に関するだけでなく、困っている方をシステムで検知し、警備員がサポートするといった新たな領域への挑戦も行っています。これからも、「安全・安心」を支える社会インフラの一翼を担い、社会の持続的な発展に貢献します。

三菱地所は、多様な人・企業が集い、交流することを通じて進化していく街を目指し、丸の内エリアの「オープンイノベーションフィールド」化を進めています。これまで「EGG JAPAN」「Global Business Hub Tokyo」「3×3 Lab Future」「FINOLAB」等各施設の設置、ビジネスクラブ「東京 21c クラブ」の運営等、スタートアップ企業の活躍する場を創出してきましたが、これらの取り組みをさらに加速させると共に、先進技術やテクノロジーを用いた実証実験を積極的に行う等、エリアの機能向上を目指して参ります。

